

日韓市民ネットワーク・なごや

会報 No.48

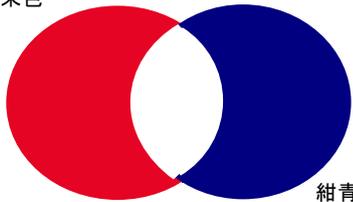
2009-10-20

일한 시민 네트워크 · 나고야

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

朱色



紺青

目次

- | | |
|------------|------------|
| 1. 事務局通信 | 統括幹事：後藤和晃 |
| 2. 会の活動報告 | 事務局 |
| 3. おしらせ | 事務局 |
| 4. 伽耶紀行感想文 | 参加者の会員の皆さん |
| 5. 会員の広場 | 会員の皆さん |
| 6. ソウル通信 | 坂野慎治 |

사무국통신 事務局通信

◎ “伽耶紀行” 成果挙げて終了

事務局 統括幹事：後藤和晃

8月23日、午後の中部国際空港国際線の出口の脇に、5日間の歴史探訪を終えた一行がずらりと顔を揃えました。84歳という高齢にもかかわらず炎天下、いくつもの古墳群を歩き通された山下智子さんの笑顔がありました。この地方が親の出身地という在日の鄭禧昇さん、李純子さんや、少年の日々を金海で過ごしたという、中林速雄さんなどの笑顔もありました。

これら一行の皆さん方に、私は心からの感謝を次のように申し上げ、旅を終えました。

「私たちの会は、会の発足いらい韓国へ、旧満州へ、はたまた奈良・京都へと数多くの日韓交流史を学ぶ旅を重ねてきましたが、今回の旅ほど大きな成果があった旅はありませんでした。一つにはこれでもかという位、交流史の現場を数多く歩き、古代の交流の証である出土物の数々を、自分たちの目でしっかりと確認したからです。4日間、つきっきりで案内していただいた考古学教授の朴天秀（パク・チョンス）さんが、別れ際にこう言われました。



“私は、これまでに何十回もいろんな団体を歴史の現場に案内しましたが、皆さんほど熱心に私の解説に耳を傾けてくれたグループはありませんでした。だから今回は一切手を抜かず案内したいところを全てお見せしました。伝えることの楽しさ、生き甲斐をこれほど感じたことはありません。本当にありがとうございました…”と。

もう一つには、日韓双方の市民、学生が一つのバスで5日間の行程を共にし、歴史の現場を歩き、寝食を共にするなど、心の交流をすることができたことです。29人の一行のうち、バスガイドやドライバーも含めれば7人が韓国の人たちで、教授や在日の実業家、留学生会の副会長

を含む多士済々のメンバーでしたね。私たちはこれらの皆さんと様々な対話を交わしましたが、大半の人々が朝鮮戦争という民族の悲劇を経て、北朝鮮に親戚がいることや、日本とのつながりも深いな

どの事実も教えられました。こうした生きた交流ができたのも、皆さん方が前向きに行動していただいたおかげです。本当に本当にありがとうございました…」



회의 활동보고
会の活動報告

(1) 伽耶紀行終了

参加者27人、下記のスケジュールで実施。この旅行では韓国観光公社の名古屋支社から資料等の全面支援を受けました。おかげさまで皆様からご好評を頂きました。

謎の国 伽耶紀行						
日韓交流史フォーラム						
No	月日	都市	交通	時間	行動予定	食事
1	2009年 8/19 (水)	名古屋	KE754 専用車	13:15	セントレア空港 旅客ターミナルビル3階 国際線出発ロビー チェックインカウンターA(大韓航空) 横の待合所 集合	朝(×)
		金海 釜山		15:05 16:35 17:00 19:30	セントレア空港発 金海国際空港着 空港発 ~ 釜山市内 ロッテ免税店 ~ ホテル 夕食(チャガルチ市場 4階 多島海 051-464-3680)	昼(×) 夜(海鮮鍋)
宿泊 : 東横イン 釜山駅1 釜山市東区広場2-1 TEL 51-466-1045						
2	8/20 (木)	釜山 金海	専用車	7:00	ホテルにて朝食(2階レストラン 7:00~ルームキー提示)	朝(ホテル)
		昌原		8:00 19:00	ホテル発 ~ 亀旨峰 ~ 王陵 ~ 大成洞古墳 ~ 昼食(金海伝統家屋体験館 055-322-4737) ~ 金海博物館 ~ 昌原市 ~ ホテル ~ 夕食会場へ 夕食(昌原市 梨花食堂 055-289-8188)	昼(プルゴギ) 夜(韓定食)
宿泊 : シティ7・ブルマンアンバサダー 慶尚南道昌原市斗大洞 333 TEL 055-600-0700						

3	8/21 (金)	昌原 咸安 固城 泗川 三千浦	専用車	7:00	ホテルにて朝食 (1階・Blupin 6:30～クーポン持参)	朝(バインガ)
				8:00	ホテル発～咸安・未山里古墳群～城山山城～博物館 ～昼食(固城郡サムドクリ・オクス休憩所にて各自) ～固城・松鶴洞一号墳～ホテルチェックイン 休憩後、～勅島～夕食	昼(自由食) 夜(カルビ)
宿泊：三千浦海上観光ホテル 慶尚南道泗川市大芳洞598 TEL 055-832-3004						
4	8/22 (土)	三千浦 陝川 高霊 昌寧 東萊	専用車	7:00	ホテルにて朝食(2階レストラン 7:00～ルームキー提示)	朝(ABF)
				8:00	ホテル発蟻津江(河東)～陝川・玉田古墳群～陝川博物館 ～昼食(博物館前 YUSUNG食堂 055-932-1250) ～高霊・池山洞古墳群～博物館～ 昌寧、拓境碑～東萊温泉	昼(ビビンバ) 夜(パジョン)
宿泊：農心ホテル 釜山市東萊区温泉洞137-7 TEL 051-550-2100						
5	8/23 (日)	東萊 金海 名古屋	専用車 KE753	7:00	ホテルにて朝食(ロビー階・Istanbul 6:30～クーポン持参)	朝(バインガ)
				8:30	ホテル発～福泉洞古墳群・博物館～空港	昼(機内軽食) 夜(×)
11:10	金海空港着					
12:40	金海国際空港発					
14:05	セントレア空港着、解散					

2) 第19回韓日・歴史文化フォーラムを実施

日時：9月16日(水) 18:00～

テーマ：飛翔した魂の記録 ◆女流飛行士 朴敬元の生涯◆

講師：敬和学園大学教授 加納 実紀代氏



戦前、植民地化されていた朝鮮に生まれ誰よりも強く自立した女性であろうと懸命の努力を傾けながらも、悲劇の死を迎えた女性がいた。
昭和8年8月7日、暗雲流れる中、伊豆の玄岳に愛機が激突し散った、朝鮮大邱市生まれの女性飛行士、朴敬元(パク・キョンウオン)である。彼女は、その日愛機「あおつばめ」を駆って羽田を飛び立っていた。そのフライトは女性として初めて朝鮮を経て満州まで翔ぼうという壮大な野望を体現するはずだったのだ。豊かでなかった家庭に育った朴敬元が日本で3番目に女性飛行士の資格をとることができた背景には意外な人々の支援があったという。朝鮮王朝の皇太子、李垠殿下とその妃、方子(まさこ)さん、そして、小泉元首相の祖父で逓信大臣の要職にあった小泉又次郎氏などである。

このフォーラムは、2004年に退任した柳洲烈(ユ・ジョユル)前駐名古屋韓国総領事が2001年11月からほぼ毎月開いていた「韓日歴史座談会」を継承・発展させようと、座談会の参加者であった、駐名古屋韓国柳聖杰(ユ・ソンゴル)元領事、貫井正之文学博士、日韓市民ネットワーク 後藤和晃事務局長、徐海錫(ソ・ヘソク)県本部副団長ら有志7人が呼び掛け人となって始まりました。



알림 お知らせ

(1) 日韓交流史講座「百濟編」は2010年2月スタート

～ 新型インフルエンザの流行期を避けて ～

春4月にスタートした日韓交流史の講座は、本来なら10月から“百濟と大和王権”の交流の実像に迫るシリーズを展開する予定でした。ところが世界的に流行している新型インフルエンザの影が日本にも及び、東京や大阪などの大都市圏では、すでに流行期に入っています。学級や学校の閉鎖が相次ぎ、健康な児童や成人が2～3日という短い期間に重症化し死亡するケースも続出しています。名古屋は東京、大阪に比べ、流行のピークが後にずれていましたが、学級や学校の閉鎖も伝えられており、これから冬場に向け、大変危険な流行期に入ることが予想されています。

そこで事務局としては危険と思われる時期を外して講座をスタートさせることを検討してきました。その結果、流行が下火になる一方で、ワクチンの注射を終えた人々が増えることと予想される来年の2月から、百濟編の講座を下記のような内容でスタートさせることにしました。7月の現地旅行の際には、現在NHK教育テレビスペシャルとして放映中の“日本と朝鮮の2000年”という歴史番組で、しばしば百濟遺跡の現地説明をされている著名な考古学者で忠南大学の考古学教授である朴淳發（パク・スンバル）さんにご案内いただく予定です。ぜひ御参加下さい！

※講座をこれまでに受けていた皆さん方には申込用のハガキを同封しますので、早目に手続きをお願いします。

日韓交流史講座・第2シリーズ

～栄光の百濟と大和王権～

- 1) 2/21 (日) “百濟”の誕生と栄光
講師 日比谷高校教諭 武井 一 氏
 - 2) 3/21 (日) 仏教伝来の衝撃～百濟の狙いは？～
講師 橘大学教授 猪熊 兼勝 氏
 - 3) 4/18 (日) “百濟木簡”から読み解く百濟と大和の関係
講師 歴史民俗博物館長 平川 南 氏
 - 4) 5/16 (日) 百濟古墳の特徴と日本への影響
講師 南山大学名誉教授 伊藤 秋男 氏
 - 5) 6/20 (日) 渡来系歌人の系譜～万葉の大和の輝き～
講師 奈良大学教授 上野 誠 氏
 - 6) 7/(未定) (日) 栄光の百濟残影紀行
案内 忠南大学教授 朴 淳發 (パク スンバル) 氏
日比谷高校教諭 武井 一 氏
- ※ 日程は4泊5日で
※ 現地講義 (於: ソウル高麗大学)
講師 金 鉉球 教授 (第1回日韓歴史研究会 韓国代表)
テーマ 木満致の謎と百濟の倭系官僚



(2) 留学生の秋のキャンプも延期します！

前の会報 47 号で 10 月中に韓国人留学生を犬山の八曾の自然林に招待し、日帰りキャンプを実施したい旨書きましたが、これも新型インフルエンザの危険を避けるため、延期することにします。関西の某高校では校内イベントなどを通じてインフル患者が一気に 500 人発生した…などの情報も伝わってきていますので、よろしく御了解下さい。



가야기행 참가자의 감상문 伽耶紀行参加者の感想文

伽耶旅行に行って来て

韓国人留学生会副会長：ヤン スンハ

まずは伽耶紀行に参加させて下さった日韓市民ネットワークなごやの後藤さんを始め会員の皆様へ感謝いたします。韓国的高等学校で習った伽耶という国は「鉄の王国」と呼ばれる鉄器文化を誇ったが三国時代の百済、高句麗、新羅の三国の勢力におさえられ栄えることはなかった。

新羅に屈服して金海の小さな国として記憶されたぐらいしか私は知らないのに日本の皆さんは伽耶の歴史に強い関心をもたれて、直接現地まで行き歴史の先生の詳しいお話を聞くことができると聞いたとき、韓国人であるわたしがもっと知らなければという恥ずかしさと同時に、伽耶についてもっと知りたいという思いがつのり、この紀行に参加することになりました。

伽耶の建国の神話が誕生した金海の亀旨峰は、今回の訪問先が昌原、城安、固城、陝川、昌寧と伽耶の生い立ちと衰退そして滅亡まで手にとるように構成されていてと

ても貴重な時間を過ごすことができました。休む暇も無いほど目が回るような日程だったがその分得たことも多かったと思います。

伽耶の土器と古墳の様式が日本との類似性をみても伽耶と日本が遠い昔から交流があったこともわかりました。パクチョンス教授のおかげで入ることができた発掘の現場では伽耶の歴史が目の前に蘇ったような感覚をおぼえました。



伽耶の歴史について詳しくそして熱く語って下さったパクチョンス教授と山下さんというお婆さんが杖をつきながら汗を拭き拭き高い古墳に登られている姿が今でも脳裏にやき付いています。

今回の旅行は私の人生の中で忘れることができない貴重な出来事でした。4泊5日の間、素敵な皆さんたちと過ごした楽しい思い出をくださりありがとうございました。

伽耶を訪ねて

会員 大嶋 明

この4月から武井先生はじめ著名な先生方による古代国「伽耶」の講座を受講していますが、今回の旅は教室で見たり聞いたりした遺跡の資料や話を自分の目で確かめ、足で実感できるので出かける前から大変楽しみにしていました。さらに現地ではこの講座の副読本として紹介された「伽耶と倭」の著者である朴天秀先生が全行程に亘って同行され懇切丁寧な日本語の解説をされるというこれ以上ない贅沢なものでした。



伽耶のほぼ全域（現在の慶尚南道の全域）に点在する各種の古墳や王陵、博物館、付属の遺跡などをバスで精力的に訪ねる旅程はちょっときつめでしたが、個人では絶対に実現できない種類の旅であることを考えると、極めて貴重な有意義な経験でした。歴史探究への興味が一段と深まったような気がします。

私も韓国へは10回以上行きましたが、韓国料理の旨さはカルビ、チジミ、チゲ、ナムル、キムチなどいつもの通りで言うまでもありませんが、今回のような地方の町や村を巡る旅は初めてでしたので、その点でも楽しいものでした。例えば、兩岸に白砂を置きながら悠然とゆるやかに流れる河、トイレ休憩で立ち寄った街道沿いの売店横で村の男達（？）が花札に興じていた風景、遺跡発掘現場の近くの小川の浅瀬で洗濯していた主婦などです。



もう一つ私が驚かされたのは「参加者30名の平均年齢が約65歳」の全員が、連日の酷暑と高湿度をものともせず回りきったことです。その情熱と知識欲、食欲、好奇心全てについてパワフルで大いに刺激を受け感謝しています。カンカン照りの中の屋外研修で真っ黒になりましたが、大満足の紀行でした。次回も是非参加できれば・・・と思っています。



亀旨峰から眺めた金海市

伽耶を訪ねて

松尾博雄 由美子

もう十年近くになりますが、NHK の文化講座で「壬申の乱をゆく」という講座を二人で受講したのが古代史入門の始まりでした。座講と現地学習が毎月行われ、まず講義では壬申の乱の基礎的な話や関連する背景などを習い、次の現地学習では座講で学習した古墳や遺跡などを現地に赴き実際に目で確かめたり、さらに歴史記念館や博物館で奥深い話を聞いたり見たりして知識を確かなものとししました。こうした勉強を毎月繰り返して3年余り、私達はすっかり古代の歴史ロマンに取り憑かれてしまいました。特に現地学習では、四季折々の風景に接し、都会では味わえない安らぎに浸ることができました。

それ以降、文化講座で一緒になった皆様と古代を訊ねる会や勉強会などお世話になっております。

また最近の韓流ブームによって、「チャングムの誓い」や「朱蒙」、「ソドンヨ」など朝鮮半島の歴史ドラマが数多く放映され、その中での日本列島との係わりもあり大変興味をもって見るようになりました。日本との類似性も有り韓国の文化や歴史、風俗などにどんどん引き込まれるようになっていきます。そして昨年秋には韓国の世界遺産を巡るツアーに参加する機会に恵まれ、直接肌で韓国を感じとることができました。そんな折、今回の「謎の国・伽耶紀行」のお話を伺い、喜び勇んで二人で参加させて頂きました。



伽耶は古代日本のふるさとともいべき国ではないかと漠然と感じておりましたので、今回の5日間に亘る遺跡探訪はまたとない貴重な旅行でした。金官伽耶からはじまり阿羅伽耶、小伽耶および大伽耶の主要な古墳群やそれぞれの遺跡博物館等をコンパクトに観察することができたのは、これほど幸いなことはありません。心からお礼を申し上げます。また、特に感銘を受けたのは、慶北大の朴天秀先生の熱意ある説明であり、この5日間先頭に立って精力的に現地遺跡を案内していただいたのには頭が下がる思いがしました。加えて、当初計画になかった発掘現場まで見学させていただいたのは、思ってもみなかったことだけに、ただただ感謝あるのみです。

韓国の方々のやさしさにも心を打たれました。韓国の若い活気ある町々、空の青さと整備された古墳群、広々とした田園風景も印象的でした。旅行中には、皆様に大変お世話になり楽しい旅行でした。心地よい疲れをのこし今、韓国の旅の余韻に浸っています。どうもありがとうございました。

ひとすぢの涼風やさし無盡亭 博 雄
この平和わかちあいたい韓の国 由美子

個人旅行でここまでは出来ない

会員：武井 一

8月の伽耶紀行はため息の連続でした。金海、馬山、咸安、固城、高霊と伽耶の発展した順序にまわるコースもさることながら、案内して下さった慶北大学の朴天秀さんの名講義ぶりがすばらしかったです。さすがに、日本と伽耶の関係を考古学から研究している人で、現地の説明の説得力があること。足下に落ちている土器の破片や貝殻から、その時代が目の前に見えるように説明され、そこから日韓関係をとくすごさ。先生の関係している発掘現場に行って、発掘されたばかりの5世紀と紀元前3世紀の遺構を見て、その違いを説明されたときなど、博物館や書物で見られないまさに「生きた学校」を見たと思いました。また、偶然にも咸安の城山山城へ行ったときのこと。先生もご存じなかったのですが、発掘調査が行われていました。そこを先生の「顔」で現地の学芸員に説明してもらい、さらになかなか難しい発掘中の写真も撮らせてもらえました。



博物館でも様々な遺物を見ながら、倭のいつ頃のもので、それが伽耶の王権とどのような関係があるか、説明して下さりました。今回よった博物館は何回か行ったことがあるのですが、特に「倭系」遺物というような説明は書かれていないので、知らなければそれまでのことです。その上に、伽耶が滅ぶ原因となった「任那四県割讓」に続く「帶沙」と、蟾津江まで案内してもらえました。川の位置関係を見ることで、あらためて日本書紀で大きく取り上げられた意味がよくわかりました。伽耶地域もずいぶん回っていますが、帶沙や、陝川など、短い時間ではパスしていた場所も多いのですが、短期間で、解説付きでまとめてみられて、とても嬉しかったです。個人旅行で

はなかなかそこまでは出来ないからです。いろいろなツアーの話も聞きますが、なかなか目的に合わせて必要なところを端的に回るツアーは少ないようです。以前百濟紀行のときの李ダウン先生然り、教授陣に造詣が深いだけでなく、話のうまい方が多いことが、財産だと改めて思いながら帰ってきました。



現地を見ることの重要さとともに、現地を知り、それを深く理解し、しかも、わかりやすく解説することの出来る人は多くありません。百濟、伽耶と続けてこのような方に会えたことはすばらしいことです。私も長年の疑問がずいぶん解けました。来年の百濟紀行でもきっとすばらしい方が解説してくださるものと思います。楽しみにしています。



大成洞古墳群は紀元1～6世紀の金官伽耶王国の有力者達の集団墓地です。小高い丘陵に作られていて丘陵周辺の平地部には1～3世紀代の木棺墓と木郭墓が、丘陵地帯には4世紀台の木郭墓が密集、分布しています。1990年から1991年の間に3回にわたって調査が実施され多くの遺物が発掘されました。日本で出土される巴型銅器や中国製の青銅鏡も出土しており金官伽耶の諸外国との深い交流を物語っています。

思い出の地 金官伽耶

会員：中林速雄

私は昭和11年、慶尚南道咸陽面で生まれ、父の転勤で国民学校入学は巨済島の長承浦、程無く梁山に転校、夏休みの終わりに釜山に移り、4年生になる前に金海に転校して、終戦後大阪に引揚げました。両親は京城（ソウル）にも住んだそうですが、私の「朝鮮」は慶尚南道だけ。思えば、全て「伽耶諸国」の領域です。このセミナーで「伽耶」という呼び方を認識しました。私の知識は「任那」です。そして金海が任那の中心だったと教えられました。



今度の現地セミナーに参加したかった理由は、一にかかって思い出の地を専門家の解説を聴きながら廻れるということに尽きます。朝鮮が植民地だった昭和20年当時、金海の王墓、王妃墓は、一応柵で囲われ、立ち入りは禁止、番人がいました。今度廻って見たように、古墳の円丘は沢山あり、それは子ども達の格好の遊び場でした。ある時、何人かで勇気を奮って柵をくぐり王墓の傍に行きました。年取った番人は、長煙管を口に咥えたまま椅子で居眠りしていました。私達ははじめオズオズ、すぐに凶々しく、上に上がって「バンザーイ」と叫びました。とたんに目を覚ました老人が、「コラァ！」と日本語で喚き駆け寄って来ました。私達は一目散に駆け下りて逃げました。誰も捕まらずに済みました。さて夕食の席で、得々とその話をした途端、「馬鹿者！」と父に一喝されて縮み上がりました。「あのお墓は、朝鮮の人にとっては神武天皇の御陵のようなものだ。そこに土足で上がるとは不敬にも程がある！」

以来、二度と足を踏み入れず、そこは聖域だと敬遠したことを、ほろ苦く思い出

ます。

十数年前、引揚げ以来はじめて金海を訪れた時、王陵、王妃陵が見違えるように整備されていたのに感心しました。そして今回、更に感心したのは、古墳群や博物館が立派に整備されていることでした。「任那」ではなく、「金官伽耶」の中心として。博物館といえば、行く先々の「伽耶諸国」の故地に、それぞれ立派な博物館が在ることに、嬉しい驚きを禁じ得ませんでした。せっかくの朴先生のお話をよそに、展示品やパノラマに見入って、遅れてしまうことがしばしばでした。朴先生は本当にすばらしいガイドをしてくださいました。大阪大学で学ばれたと聞きましたが、はじめ時々？と思えた日本語が、いつの間にかすっかりよく分るようになっていました。なにより、あの熱の籠った話しぶりに圧倒されました。学識と人柄と情熱と、そして私にはもう遠くなった若さとが、先生の魅力です。ありがとうございました。



その大阪大学の考古学教室の学生達が飛び入り参加したのは愉快でしたね。それ以上に、ソウルに帰省中の梁君がずっと一緒だったのは嬉しいことでした。初対面の私でさえ、すぐに、ああ、いい青年だなと感じましたから。名古屋で再会するのが楽しみです。そして、これらあれこれをセッティングしてくださった後藤さんはじめ事務方の皆さんに拍手を送ります。ありがとうございました。うっかり書き忘れるところでしたが、鶴飼さんには感謝の一言です。一緒に行けなかったのが残念でしたが、まさか鶴飼いさんのお蔭で毎日の食事の飲み物が頂けるとは、予想もしませんでした。

最敬礼です。

今回、慶尚南道を東から西へ横断して、つくづく感じたのは、山々の緑の深さです。昔「朝鮮の山は禿山」でした。今、「韓国の山は緑豊か」です。たしか朴大統領の時代に「国中を緑に」という運動が、政策として実行されたと聞いています。その結果がこれなら、毀誉褒貶さまざまな朴正キ（パクチョンヒ）の、間違いなくプラスの業績の一つだと思います。経済復興と共に。

旅をおえて

会員：伊藤みつ子

諸先生方を含めて27名で過ごした5日間。まずこの27名の平均年齢を正確に計算したら65歳でした。

この世代の方々が如何に日韓交流の古代史に関心を持っておられるかを物語っているようにも見える。旅の主題は、「謎の国・伽耶とは？」で、私は①伽耶と任那日本府の存在の謎②伽耶地方と新羅のみにみられた殉葬の意味がメインで有ったように思う。



殉葬された伽耶女性を復元

①日本書記に記された「任那日本府」の見方には大きく分けると 1) ヤマト王権がおいた機関 2) ヤマト王権が派遣した使節団 3) 安羅王のもとで活動した安羅在住の倭人 4) 百済王のもとで活動した倭系官僚 の4つ有り、その実像をめぐって今も日韓双方で議論が続けられている。日本府といっても役所ではなく、一つの集団のような存在であったと思われる、6世紀初めから562年に任那（伽耶）が滅びるまでは伽耶を中心として韓半島との交流が活発に行なわれ、お互いに必要としたものを交わした交流、いわばギブアンドテイクの関係であったことが、古

5日間、「お勉強」もすることながら、私は彼の国の自然の美しさを再認識していました。山も川も海も田畑もです。韓国には何度も行っていますが、たいていは賑やかな街中や観光名所で、美味しい酒を飲み、旨い料理を食うのが目的です。それはこれからも変わりませんが、この次はもっとあちこち歩きたいという気がしています。なんと言っても生まれ育った土地ですから。

墳の発掘調査からも解明されつつある。②殉葬とは死者の為に生きている人を一緒に埋める葬法だが、特異な点は旧新羅と伽耶地域のみで古墳の中から見つかったことから、この地方本来の風習ではなく或る時代のみ北方騎馬民族の風習が最初は金海を中心に伝わり伽耶地方・新羅に広がったと見られている。他の地域にこの風習が広がらなかったのは、農耕民族にとって人は大切な労働力の為、生きた若い人達を殉職させるのは忍びなかったからでは、と推測されている。この殉葬者は誰でもよかったのか？という問いかけにも例えば金の装身具等の副葬品やDNA鑑定から側近の高貴な侍女や召使では？とも推測されている。大成洞や池山洞古墳で解説して頂いた。



鴨の土器 鴨は伽耶の象徴

殉葬以外でも、私にとって大感動だったのが、旅の4日目に慶尚道と全羅道の境界を流れる大河、蟾津江（ソムジンガン）に出会ったことだった。当初の行程には、ソムジンガンまで行く予定は入っていなかったものの、案内の朴教授が「これだけ伽耶の地

を廻って来たのだから絶対 蟾津江を見なければ！」と強く主張されたのである。私たちは長駆、西へ奔り、蟾津江を一目見て朴教授の深い思いを理解することが出来た。



まず、これほど美しい大河は韓国には他には無いだろうと思われた。流れる水はあくまでも清く青く、岸边には純白の砂州が陽光を眩しく反射していた。堤防には百日紅(さるすべり)の並木が続き、折りしも紅い可憐な花々が咲き誇っていた。

朴教授によれば、この蟾津江の河東(ハドン)の周辺が、今から 1500 年ほど前に大和の継体天皇が、百済の武寧王に割譲したとされる任那四県のうちの帶砂(沙陀ともいう)にあたる故地だという。そのころには、この大河には、はるばる訪れた倭人たちの船が浮かんでいたのだろうか!? ここが、古代の日韓関係の重要な接点の一つだったのかと思うと感慨も一入のものがあつた。さらに河の風景を見入っていた私の目には、河岸に立つチマチョゴリの上品な女性の幻が浮かんできた。ちょうど私が今、見ている韓国の大河小説をもとにしたドラマ「大地」の舞台が、ここ河東の平沙里で、主人公の女性チェ・ソヒが、まさに眼前に立っているようなおもいがしたのだ。故人の作家 朴景利が書いた大河小説「大地」は、韓国・朝鮮人の心にひそむ「恨」を描いたものという。大地主の両班の娘、チェ・ソヒは幸せいっぱい幼児期の後、朝鮮が日本に併呑される中で、様々の苦難を体験しながら生きてゆく。彼女の周辺には、朝鮮独立を求めて奔走する独立運動家たちや、彼女の資産を狙う親日派の親族そして日本人警察署長などが現れては消える。ソヒにとって日本という巨大な力が「恨」の根源で

ある一方、大きな土地を受け継ぐ彼女自身が奴婢階級の人々から見れば「恨」の対象だったかも知れない。

朴景利がこの蟾津江・河東を舞台に描いたのは韓日交流の現代史の一番辛い部分だったといえよう。伽耶紀行に参加していた在日の人々や留学生あわせて 3 人の親たちの出身地がまさに河東周辺で、しかも北朝鮮にそれぞれの親族が分れ住んでいるという事実を知ったのも衝撃的な出来事だった。1500 年にわたって、日本との複雑な関係を持ってきた蟾津江流れる美しい大地を、私は、今後ともわすれることができないだろう。それにしても平均年齢 65 歳の私達はよく歩きました。各地の古墳を訪ねた時、朴教授の勧めで何度古墳のてっぺんまで登ったことでしょうか。かつての王族の方々の古墳の上に登っていいのかしら? と素朴な疑問が沸きましたが、お構いなしの教授のお陰で私達は多分、他では体験出来ないことをしてきたように思います。



古墳の頂点に 27 人が立って絶景を見渡しながらか解説をして頂き、坂道を降りる時は座ってすべり台のようにすべって降りたりして、この時の楽しかったことといたら一生の思い出となりそうです。(^^♪

旅行社としてはガイドも私も未熟者で、皆様にご迷惑をおかけしたとは思いますが、これに懲りませず
また一緒に出掛けましょうね! 今後とも宜しく願いいたします。

短 歌
会員の皆さん



風青し 山本玲子
 円墳を渡りて来たる風青し
 連なるる円墳の上蟬時雨
 秋雲を透ける日差し韓王陵
 百日紅若き並木もその奥も
 朴教授野苺を喰み汗ぬぐふ

花木権 佐藤昭子
 緑青の大伽耶王冠花木権
 汗拭ひ説明さるる朴講師
 野苺を分け合ひ喰ぶる古墳道
 講師立つ古墳の天辺秋高し
 黙々と古墳発掘夏帽子

秋の蝶 高橋孝子
 王城も王墓も淡き秋のもや
 発掘の人々縫ひて秋の蝶
 殉葬の多き古墳や秋の雲
 弥生土器探す勒島の胡麻畑
 さみどりの王妃の古墳葛の花

鯛雲 山下智子
 鯛雲尾根まで続く古墳群
 底紅や伽耶王冠に倭の翡翠
 円墳の肩に撫子五・六本
 きざまれし章魚のうごめく韓料理
 蟾津江を搔くよ土用の蜆舟



회원마당 会員の広場

“ハムケ＝ともに” 高校生平和特派員実行委員会
会員：久田光政

めっちゃサランヘヨ！ノムノム愛してる！ L I V E 2009 in ソウル

2009年7月25日 ソウル・大学路(テハンノ) マロニエ公園野外ステージ



韓国全羅北道全州市の韓国伝統文化高校と、「友情」と「平和」をテーマに2003年以來、交流を続けている「“ハムケ＝ともに”高校生平和特派員」。

今夏はソウルで日韓の高校生による韓国伝統音楽・文化のイベントを、日韓文化交流基金の助成、日本政府観光局ソウル事務所、韓国観光公社の協力を得て開催しました。

日本メンバー14人は、伝統打楽器のチャンゴだけで演奏する「ソルチャング」、4種類の伝統打楽器演奏のサムルノリ「嶺南農樂」に創作のヒップホップダンスを交えて演奏し、韓国メンバーはコムンゴやピリなどの伝統楽器の演奏を披露しました。また、日韓の高校生が「ふるさと」「故郷の春」を日本語と韓国語で合唱しました。

お客さんも左の写真のように多くの方にお越しに頂き、掛け声なども入って、日韓の高校生の伝統音楽演奏を楽しんで頂くことができました。

演奏後にはマロニエ公園で伝統文化高校の韓国絵画科、工芸デザイン科、韓国料理科の学生たちによるワークショップも開催しました。左の写真のように公園にいた子どもたちが大勢参加しました。

日韓の高校生による楽しいイベントに、日韓の新しい未来を垣間見ることができたすてきな夏の日とすることができました。

富士山フォットスケッチ

会員：小出 宣昭

富士の神秘に魅せられ、富士山を撮り続けて一昔以上が過ぎました。ほとんどの撮影が標高1000mを超える場所と早朝・夕方が多いため、厳冬の季節では気温も氷点下20度近くまで下がりますが、ひたすらシャッターチャンスを待っています。

自身の防寒はもちろん、撮影機材の寒さ対策も絶対に必要です。カメラの電池は驚くほど早く消耗しますから、予備の電池は暖かく保温しながら保管しています。

富士山を撮影する際には撮影テーマを決めて、そのテーマにそってひたすらチャンスを待つことにしています。春は逆さ富士、夏は赤富士、秋は夕焼け富士、冬は紅富士、晩秋から冬にはダイヤモンド富士と、テーマを決めた上で撮影できそうな場所も選んでいます。

富士山に神秘さを感じるのは、富士山に加え光と雲と湖水などによって作り出される色彩の美しさにあるとも思われます。

そうした色彩の美しさをカメラに捕らえた時、早起きの辛さや待つ間の寒さ、撮影の苦勞をみんな忘れてしまいます。

今回、後藤代表の計らいで会報紙上に作品を紹介する機会を得ましたが、作品のごく一部であることやそれぞれの美しい色彩を見ていただけないのが誠に残念です。

なお、来年2月2日から2月7日の日程で、富士山をフォットスケッチした作品展示の個展を開きます。

場所は、桑名市ふれあい学習館（長島町 なばなの里 隣り）のギャラリーです。

みなさま方のお越しをお待ちしています。



五月の逆さ富士



初冠雪の赤富士 8月



富士桜の咲く峠 4月



紅富士 2月



初冠雪の赤富士 10月



ししうどの咲く頃 7月



国民参与裁判制度

会員：坂野慎治

日本では「裁判員制度」が始まりましたが、韓国では今年から「国民参与裁判制度」が始まっています。これは裁判に陪審員が参加するもので、対象となる裁判は殺人や賄賂など重い犯罪ですが、被告が望んだ場合に限られます。

ただ、アメリカの陪審員制度と違うのは、裁判官が陪審員の決定に従う必要がない点。有罪か無罪かだけでなく、懲役何年など量刑まで決める点。またアメリカでは刑事事件で無罪になった場合、検察は控訴できませんが、韓国では検察も被告も控訴ができる点、などがあります。

この国民参与裁判制度は、開始から4か月間で3821件の刑事裁判のうち11件で実施されました。割合で見ますと0.3%で、アメリカの5%よりかなり低く、まだ一般化していません。この制度は当初、被告が「お涙頂戴」式に訴えて陪審員が量刑を軽くするのではないかと心配されましたが、こうした問題は次第に改善されているようです。また陪審員がいることで、専門用語を使わず分かりやすい言葉で裁判を進めるようになったと評価されています。しかし反対に、検察や被告による控訴が多いため、制度の意味がないという意見もあります。

国民参与裁判制度は5年間実施した後、存続か廃止かを定める予定なので、評価するのはまだ早いようです。

裁判員制度を
韓国では国民参与裁判
制度といいます。
한국에서는
국민참여 판제 도라고
합니다



編集後記 (2009/10/20)

会員の皆さんお元気ですか？

新型インフルエンザが猛威をふるっているこの頃ですが、我が家は大丈夫だと思っていたら一番元気がある次男がかかってしまい近所の医者で診せたら高熱で脳炎になると大変だからと言って病院から救急車を呼び特別治療室へ・・・完治まで一週間ほどかかりました。

私たちの会の総括幹事もひどい目にあったそうです。そして「日韓交流史講座」は来年2月まで「留学生の秋のキャンプ」も危険を避けるため延期することになりました。おかげさまで総括幹事も息子も無事退院し元気になりました。

次のイベントが開かれたときは会員の皆様がいつものような元気なお姿でお会いできることを祈っています。どうかくれぐれもこの悪性インフルエンザにかからないようご自愛下さい。

編集長 中川修介 Mail:nakagawa@amenity-owari.jp